EurekaⅫ

六年制通信　№41　令和７年３月14日（金）号

vs めんどくさい

これ、漢字で書くと「面倒臭い」ですから「めんどうくさい」と発音すべきところですが、それこそちゃんと発音するのが面倒臭いのか普通は「めんどくさい」と言ってしまいます、私は。『大辞林』によれば「面倒」とは、①手間がかかったり、解決が容易でなかったりして、わずらわしいこと。例文としては「面倒な手続き」「面倒なことにならなければよいが」「断るのも面倒だ」、②世話。例文は「この子の面倒をお願いします」とあり、「面倒臭い」は、いかにも面倒に感じられる、とのこと。

確かに世の中、面倒臭いことがたくさんありますね。先日、校長室で高校生に英語の補習をしていて、辞書を引く生徒たちを見ていたのですが、この作業、さぞや面倒臭く感じているだろうと思いましてね。私もそうでしたから。私は学生時代に恩師から辞書を引く回数と英語の力は比例して伸びると教わりましたから、以来辞書を引くことを大切に考えてきましたが、それでも高校生の頃はいちいち辞書を手に取るのは面倒に思っていました。一度引いたことのある単語なら余計にそう思いましたね。昔は電子辞書などなかったので鞄に研究社の辞書を入れて持ち歩くのがすでに面倒でした。そんなことを思い出しながら生徒諸君が辞書を引いている姿を見ていて、勉強するときに最もマイナスになる感情が「面倒臭い」なのだという話をしました。これに打ち勝たないと勉強はできません。いや、勉強に限らず世の中のこと、というか人生を生きていく上で「面倒臭い」は一番の敵ではないかと思います。

そもそも、何もしなくていいのなら、面倒臭いという感情すら湧かないはずです。何かをしなければならないという状況があって、しかもそれが自分にとって必要なことだと十分認識できているのだが、喜んでしているわけではない、そんなときに少し手間のかかることに出会うと面倒臭いという感情が起こって来るのではないでしょうか。辞書のことでも、十分に理解しているのですね、それが必要なことは。しかも自分の進路を決めていくのに大切であることも。しかし、気持ちの面で「すすんで」とか「喜んで」とか「楽しんで」とか、そういうプラスの感情がないと続かないのでしょうね。いわゆる must は十分理解しているけれど、イマイチ will になり切れない、そんなところでしょうか。では「面倒臭い」に打ち勝つにはどうすればいいのでしょうね。私は誰にでも効く特効薬はないと思いますが、辞書に限って言えば、始めの集中した数週間を耐えれば辞書を引くことも飛躍的に速くなるし、得られる知識の大きさに気づきますから、積極的になれると思います。大切なのは得られる実を意識することですね。さて、みなさん、「EurekaⅫ」もこれでおしまいです。

春休みのおすすめ

・鈴木結生　『ゲーテはすべてを言った』　（毎日新聞出版）

「ギョエテとは俺のことかとゲーテ言い」とは誰の言葉でしたか。確か出典はよくわからなかったのではなかったか。しかし上手いことを言うものですね。ゲーテの綴りは Goethe ですからね。昔の本に「ギョエテ」と書いてあるのを私も見たことがあります。ドイツ語では Goethe の-oe-は「オ」の口をして「エ」と発音するので「ギョエテ」のように聞こえなくもないか。外国人の名前の日本語表記は難しいですね。日本語にない「音」があるし、母音の長短の問題もあるしね。ソクラテスも本当はソークラテースだし。そう言えば、昔フランス語の偉い先生が『レ・ミゼラブル』の作者をヴィクトル・ユーゴーと表記する出版社を批判してはりましたな。ユーゴーはあり得ない、ユゴーであると。以上のような話が面白いと感じた人は今回の本を面白く読めると思います。作者は英文学専攻の大学院生なのですね。まだお若いのは文章からも伝わります。ドイツ人が本当に全ての発言をゲーテのせいにするのかどうか知りませんが、何となくありそうな気がします。「愛は全てを混淆せず、渾然となす」とゲーテが言っていますわなとか、そういう使い方をするようです。私、何でもかんでも「宣長がすでにそのことを予言していましてな」とおっしゃる方にお会いしたことがありますが、そのお方にとって宣長は神様なのでしょうな。

この本は芥川賞の受賞作ですが、これ、純文学としての評価は分かれるのではないかと思います。手に取った人も、面白いと思う人と 2 ページくらいで閉じる人と両極端ではないかな。私、高校生の頃にはこれは読めなかったな。ちなみに私の中で純文学としてずっと輝いているのは柴田翔の『贈る言葉』です。

ゲーテと言えば『ファウスト』ですね。誰もが知っていて誰も読んでいない本というのが古典には多いですが、これもその口かな、ひょっとして。メフィストとかメフィストフェレスとか、そんな名前に聞き覚えがありませんかね。ファウストに出てくる悪魔の名前です。訳本はたくさん出ています。相良守峯、高橋義孝、池内紀、手塚富雄など。私は手塚訳ともう一人岩波文庫の森林太郎訳を持っています。これ誰だかわかりますか。そう、天才森鴎外ですよ。鴎外の翻訳は本当に名文ですね。

・I am Sam　これは映画です。是非観て下さい。

この映画は何回も見て何回も泣きました。知的障害を持つ父親サム役のショーン・ペン、反則級に可愛い娘ルーシー役のダコタ・ファニング、凄腕弁護士リタ役のミッシェル・ファイファーのいずれもが名優で、特にショーンの役作りには感動すら覚えました。知的障害のシングルファーザーには養育不能と判断され娘と離れ離れにさせられるサム、法廷で親権を取り返そうと奮闘するリタ、里親から逃げてサムのもとへ帰ろうとするルーシーが描かれています。自らも社会的栄達とは裏腹に孤独な家庭を作ってしまったリタはサムと触れ合ううちに本当の愛情を知っていく、そこも見どころですね。それにしても、です。ダコタちゃんが泣くだけで私たちジジイはもらい泣きをしながら観てしまうわけですね。あれは反則です。

BGM は　ダニエル・ブーン の *Beautiful Sunday*　でした…。